

ぼだいよこていせき
菩提横手遺跡

秦野市No.195



J1 号列石と北側住居

2018年の調査では、縄文時代中期・後期の住居跡が多数見つかりました。とくに調査区の中央部付近では縄文時代後期前葉から中葉の時期の住居跡が接近した場所に重なり合って繰り返し作られていた様子がわかりました。その前面部は段状に土地が整形されており、大きな石を3～4段石垣状に貼り付けています。この石垣状の列石は、重複する住居跡のうち最も新しい住居跡の出入り口と考えられる張り出し部の基部から左右に弧状を呈して広がっているように見えます。

また列石に接して、角柱状の石を立てそのまわりに平らな石を配した配石とよばれる遺構が複数作られています。配石は石の並べ方や相互の位置関係から、いくつかのグループに分けることができそうです。

この下部からは列状に並んだ墓坑も見つかっています。



考古学財団

(公財) かながわ考古学財団

<https://www.kaf.or.jp/>